

INFO ①

福祉とアーツ北海道より☆参加者募集中☆

ゆうゆうが運営する「福祉とアーツ北海道」では、支援者研修や美術公募展、ステージ発表会を開催するにあたり、参加者を募集しています。作品や自慢のパフォーマンス、日ごろの成果を見てほしい！支援の現場をアートで盛り上げたい！などなど、チャレンジしたい人大歓迎です。ご質問や参加のご相談もお気軽に芸術文化推進職員へお声がけください！

申込方法など詳細は福祉とアーツ北海道HPをご覧ください。

支援者研修 はじめてのいっぽ

2025年
10月24日(金) 13:30-15:30

つくるこころのワークショップ(講師 菊地雅子/ボーダレスアートサポート北海道[BASH]代表)
2025年10月29日(水) 13:30-15:30
おどるワークショップ(講師 堀内まゆみ/ダンサー/振付家、美術家、研究者)
会場:札幌市教育文化会館(札幌市中央区北1条西13丁目)
対象:障がいのある方の支援に興味がある人
申込締切:10月15日(水)



北海道 障がい者のアート展

2025年
12月11日(木)~16日(火)

会場:札幌市民ギャラリー 第2展示室(札幌市中央区南2条東6丁目)
参加資格:北海道に在住する障がいのある人
参加規程:1人につき1点まで
申込締切:2025年10月31日(金) 必着



ゴーオンステージVol.2

2026年
1月12日(月・祝) 開演12:30

会場:札幌市教育文化会館 小ホール(札幌市中央区北1条西13丁目)
参加資格:北海道でステージ活動を行っている障がいのある個人または障がいのある人が参加するグループ
ジャンル:ステージで表現したいものなら何でもOK
募集締切:2025年10月14日(火) 必着



福祉とアーツ北海道HP

INFO ②

豪華ゲスト!オンライン講座「福祉と当事者のリアル」

ご好評いただいております、北海道医療大学公開講座「福祉と当事者のリアル」が後期も始まりました。現場のリアルを学ぶ機会が少ない学生たちに向けたオンラインの講座は、一般の方にもご視聴いただいています。この講座を受けたことで自ら一歩踏み出した若者、福祉のイメージを大きく変えた一般の方など、誰かのきっかけにもなる講座となっております。今回は、ケアを哲学する社会福祉法人経営者、目の前の子どもに向き合い続ける長年の実践者、教員からゆうゆうの職員になったサロン担当者などにお話しいただきます。そして、なんと最終回には、現役厚生労働省の方から今後の地域共生社会のお話もお聞きいただけます。全国各地の現場からのリアルな実践のお話をお見逃しなく！詳細、視聴申し込みはQRコードよりご確認ください。



Donation 寄付について

ゆうゆうの活動に ご支援をお願いします

◎社会福祉法人への寄付について

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切にする福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896
https://yu-yu.or.jp/contact/



1 個人の場合 2 法人の場合 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。



ゆうゆうの今を伝える広報紙



YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



撮影:佐伯悠磨

YOU YOU MAGAZINE 2025/5 SPRING

デザイン/株式会社ブリオンデ 山崎啓太郎 発行/社会福祉法人ゆうゆう 広報 tel:0133-22-2896 mail:info@yu-yu.or.jp



2025 / 9 SUMMER



ゆうゆうが指定管理者となっはじめての和寒の夏です

3年後の新施設建設に向け、利用者を代弁する職員の意見や町民の皆さんの意見を踏まえ、建築設計事務所tecoさんによる実施設計が徐々に形になってきました。新しい居室は車いすを使用される方の動きを苑内で再現し、日々の暮らし、支援において効果的に使えるよう検討しました。

新施設について皆さんにお伝えできる日も、もうすぐです。

特別養護老人ホームのケアは最期まで過ごすことができる施設をめざして、合同会社Swimyの石角診療看護師に感染症対策、認知症ケア、褥瘡ケアなどの具体的なケア方法から、利用者主体の職員の姿勢についてなど幅広くご助言をいただいています。また9月5日、6日に、神奈川県愛川町の社会福祉法人愛川舞寿会馬場理事長による研修を受け、ケアをする人・される人という境界を越え、人間としてきめく瞬間をつくる環境支援について学び、改めて芳生苑・健楽苑の価値を確認することができました。

高齢者デイサービス、食サービス事業についてもこれまでの強みを活かし、利用される皆さんにさらに愉しく、心地良いサービスが提供されるよう、新しい施設のビジョンについて議論を重ねています。

また、この夏コロナ禍を経て久しぶりに「芳生苑夏まつり」を再開。50名近いご家族にもご参加いただき素晴らしい賑わいでした。「こんなに人でいっぱいの芳生苑は久しぶりに見た」と言う職員の目には少し涙が。この間の利用者・家族・職員の辛い思いが報われた瞬間だったのではないのでしょうか。これからも様々なことが起こるかもしれませんが、皆さんと力を合わせ、利用者の皆さまにとって最も大事である「暮らし」を守るべく、最善を尽くしていきます。今後も和寒町から目が離せません！



子どもたちとの夏休み

amaririsuの夏休みは、海遊びやマクドナルドのデリバリーなどの地域に出かけるイベントや、人とのコミュニケーション、外出の機会として江別市の喫茶店へのお出かけ、ぺこぺこのはたけで就労体験など、さまざまな活動を実施しました。

マクドナルドのデリバリーでは子どもたちに自分で注文、お金を支払う体験をしてもらい、店員さんに「ダブルチーズバーガーセットを1つ、ピクルスとマスタード抜きで」などと細かい注文を一生懸命伝えようとする姿も見られ、子どもたちの日々の成長を感じました。



ぺこぺこのはたけでの就労体験では、ブルーベリーの木を植えるためにスコップで土を掘り、初めて会うスタッフにも緊張をすることなく接することができ、普段経験することのできない活動に新鮮さを感じていました。少し雨が降る中ではありましたが、必死に土を掘りみんなで木を植え終わると達成感を味わうことができました。今後もamaririsuの活動を通して、子どもたちの成長や新たな一面を見つけることができるよう関わっていきます。

みんなで作る!楽しむ!よるのにじイベント

よるのにじでは、第3土曜日や祝日にわくわくするイベントを行っています。ピザ作り体験では、生地からこねて挑戦し、焼きたてをみんなで味わう特別な時間を楽しみました。今年は大阪・関西万博をテーマにしたアート作品づくりにも取り組み、普段とはひと味違う創作活動で大きな達成感を味わいました。季節行事では、わたストを活用した流しそうめんを開催し、商店街のにぎわいを感じながら笑顔あふれる時間を過ごしました。さらに、kaedeと企画を共有しあい、お互いに刺激を受け合い、一緒にいきいきと楽しめる場づくりを大切にしています。7月には大麻銀座商店街の子ども祭りで配布するお菓子300個作成し、当日は多くの子どもたちに喜ばれ、商店街の盛り上げにもつながりました。江別事業部は新しい体制でスタートを切り、保護者の皆さまとも茶話会を通じて交流を深めています。これからも「江別らしさ」を大切に、安心と笑顔を育む活動を広げていきます。



ひとりの想いに向き合う日々

ヘルパーステーションajisaiを利用されているKさん。ここ数年、ご自宅で過ごされる時間が多いKさんと関わる中で、外出の機会が持てたら素敵だなと感じていました。

6月には、地域生活サポーター（有償ボランティア）としてご自宅へ伺った学生を通じて、Kさんがお孫さんの結婚式を控えていることを伺いました。外出支援を利用しての結婚式への参列は希望されませんでしたが、学生とビデオレターをつくり、お祝いの気持ちをお伝えする機会を持つことができました。



そしてこの夏、通院支援の際に院内レストランへお誘いしたところ、快く応じてくださり、Kさんと一緒に唐揚げ定食をいただきました。普段は家事ヘルパーによる作り置き料理を召し上がることが多いKさんは、「揚げたてなんて久しぶりだね」と嬉しそうに頬張られ、その笑顔がとても印象的でした。地域共生推進部では、これからも制度内・制度外のサービスを活用しながら、一人ひとりの思いに寄り添った支援を続けてまいります。（職員1）

職員の成長を応援する、新しい取り組み

今年度より、ゆうゆうでは新たに和寒事業部を立ち上げ、新しい仲間を迎えました。職員の働く場所や参画の背景が多様化する中で、組織としての一体感や専門性を高めていくことを目的に、「ゆうゆうとして大切にする考え方や行動」を明文化する「コンピテンシー・教育体系構築プロジェクト」を始動しました。このプロジェクトでは、法人としての共通の価値観や行動基準を明確にし、階層ごとに求められる役割や行動を示すことで、キャリア面談や育成支援に活用し、職員の成長を可視化します。さらに、今後の教育体系の構築を見据え、必要な研修を整理・体系化することで、育成を進めていきます。



ひょっとこ踊りで地域交流

踊り子さんが3人しかいなくなってしまうとターミナルにお話があったのが3年ほど前。サークルONEの学生を中心にゆうゆう塾のこどもたちとターミナルで練習をしていく中で、少しずつ、踊り子さんの輪が広がっていききました。ひょっとこ踊りは地域を創ってきたゆうゆうにとっても大切な繋ぎのひとつのため、絶やしたくないという想いと、地域とつながりたいと思うあらゆる人たちの想いが重なり、これからはお祭りやイベントで関わる人たちに笑顔があふれることでしょう。

ちょっと恥ずかしい気持ちもひょっとこのお面をつければ大丈夫です。練習はターミナルでやっています。一度参加すればすぐに踊り子になれますよ。裏方さんも募集しています。



町内会と一緒にお祭りを！

去る8月10日、東開文化交流サロンでは町内会と一緒に「東開町内会フェスタ」を開催。苦小牧での事業が始まり、ここでお祭りをやりたい…と考え、2年連続開催することができました！

当日は小さなお子さんからご年配の方まで幅広い世代の方が参加され、飲みながら・食べながら・踊りながら交流を楽しみました。参加された皆さんからは、「町内の人と顔を合わせて話せてよかった」「世代のちがう人とも自然に交流できてうれしい」といった声をいただき、地域ならではのあたたかい雰囲気包まれたひとときとなりました。このフェスタは、町内会とサロン、参加者である地域の方みんなが力を合わせてつくりあげたもので、今後も継続して行いたいと考えています。これからも「誰でも立ち寄れる身近な場所」として、地域の皆さんと一緒に楽しい時間をつくっていききたいと思います！少し離れているかもしれませんが、ドライブも兼ねてぜひお立ち寄りください。



夏の日長の延長営業

東開文化交流サロンではサマータイムと称し、普段17時に閉まる図書室やカフェの延長営業を行いました！

図書室は19時まで貸出、21時まで閲覧可として開放し、カフェは20時ラストオーダーの20時30分閉店。猛暑、酷暑のこの夏をクールシェア施設でもあるサロンで、普段は手に取らない種類の本に触れたり、資格勉強をしたり、家族連れでパフェを食べたりと、思い思いに快適に過ごしていただきました。普段来られない方など多くの方にご来館いただき、魅力も発信できたのではないかと思います。

また、夜間イベントとして「人をつなぐ、まちを紡ぐ。そういう「本」と「場」について語る。」を行い、こちらも大盛り上がり。お子さん連れのママと一緒に参加したり、クラフトビールを飲みながら講演を聞いたり。日長の夏を利用して、普段とは違う表情を見せた苦小牧市東開文化交流サロンでした。

